

## 公共施設を考える 市民ワークショップが意見書を提出

「公共施設を考える市民ワークショップ」のメンバーは12月14日、公共施設のあり方・方向性について取りまとめた意見書を稲葉市長に提出しました。

同市民ワークショップは公募に応じた市民10人で構成され、平成28年8月から4回にわたりワークショップを開催。市が平成27年度に作成した「公共施設等マネジメント基本方針」の実施計画策定にあたり、公共施設の将来のあり方を検討し、意見書として学校の余裕教室の活用や市役所を中心とした施設の集約化・複合化など公共施設の再編に向けた方向性を提案しました。

市では現在、今回の意見書に留意しながら「下妻市公共施設再配置計画【1期】」を策定しており、今後の公共施設の再編に向けた取り組みを進めていきます。



「公共施設を考える市民ワークショップ」メンバーから稲葉市長に意見書が手渡されました（左から外山美砂さん、須藤美樹さん、大林守さん、稲葉市長、柴山勝人さん）

## 買い物から「金銭感覚」を養う

市では、消費者教育推進法に基づき、平成25年度から市内小中学校で自立した消費者の育成と消費者被害の未然防止を図るための「消費者教育」を展開しています。

平成28年度は、ファイナンシャルプランナーなどで構成される茨城金融広報委員会の金融広報アドバイザーを迎え、市内の7小学校で「金銭感覚」を養うための講座を実施しています。

11月22日には総上小学校の6年生を対象に、与えられた条件の中で自分の視点や考えに基づいて答えを出す「カレー作りゲーム」が行われました。この講座の中で児童たちは「何かを買ったら、何かを買えなくなる」という、買うときの基本的態度（希少性、トレードオフ）を体験しました。

「予算があるので、我慢することも必要だと思った。



限られた予算で買い物を考える児童たち（11月22日、総上小学校）

悩んだけど、おいしいカレーがでさそう」と話す稲葉皓己さん。限られた予算で買い物をすると、という感覚をしっかりとつかんでいました。

## 一般社団法人下妻青年会議所と「災害時における支援活動に関する協定」締結

一般社団法人下妻青年会議所と下妻市は12月15日、「災害時における支援活動に関する協定」を締結しました。

協定の内容は、災害時に市が行う応急救助への支援活動を迅速かつ円滑に行うことを目的としたもので、災害発生直後から組織的な活動ができる同会議所には人員や車両が不足する中でネットワークを生かした人的支援が期待されています。

協定書を取り交わした稲葉市長は、平成27年関東・東北豪雨災害で飲料水の提供のほか、災害ごみの回収や運搬などの支援を受けたことに感謝を述べた上で、「若い力に応援いただけて大変心強い。平常時から防災のソフト面で協力体制を築いて連携していきたい。地域をよく知る会員の皆さんには、自助、共助のけん引役となってほしい」と期待し、同会議所の平塚一芳理事長は「有事にすぐ行動できる体制が整った。この地域を守っていききたい。行政と協力して防災や災害時の一助となれば」と力強く抱負を語りました。



協定書に調印、取り交わした平塚理事長(左)と稲葉市長(右)

## 教育の充実を図り、人権尊重の精神を育む社会を目指して

健全な青少年育成や教育力の向上を図る「第34回下妻市教育振興大会」と人権尊重の社会を目指した「下妻市人権教育講演会」が12月10日、市民文化会館で同日開催され、教育関係者や市民など約500人が参加しました。

### ■第34回下妻市教育振興大会

教育振興大会では、横瀬教育長から青少年の健全育成を柱とする大会宣言がなされた後、市の教育振興に尽力された48人と教育論文の入賞者15人、いじめ防止標語コンクールの最優秀賞2人が表彰されました。同標語コンクールは、市内の児童生徒がいじめ防止に向けて標語を作成することを通して、いじめの問題について考えていくことを目的として毎年開催されています。



受賞おめでとうございます

### ◇いじめ防止標語コンクール(最優秀賞)

- よく見てね まわりの友だち えがおかな  
大形小学校2年 鈴木 日和 さん
- 考えて 軽い言葉の 重い意味  
下妻中学校3年 山田 綾香 さん

### ■下妻市人権教育講演会

人権教育講演会では、毎日新聞論説委員の野澤和弘さんが「障がいのある人もない人も暮らしやすい地域とは」と題して講演を行いました。

野澤さんは、日本と世界の障害者福祉の状況・比較からはじまり、障害のある方への理解の大切さ、障害者差別の解消につなげるための方法や仕組みなどについて、自身の体験を踏まえながら具体例を通じた話がありました。

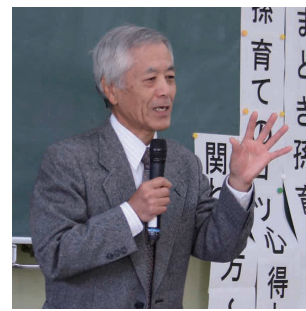
参加者からは、「難しいテーマでしたが、事例が多く、わかりやすい講演でした。障がいのない人にも優しい社会であってほしいと感じました」などの感想が寄せられました。



暮らしやすい地域を語る野澤さん

## 孫育ての心得と関わり方を学ぶ「いまどき孫育て講座」市で初開催

市では、子育て世代と祖父母世代が楽しく子育て、孫育てができるように「いまどき孫育て講座」を11月15、29日の全2回、市保健センターで開催しました。孫育てをテーマにした講座は市で初めて。



孫育ての心得とコツを話す浅野さん

講座1回目は、祖父母が子育てをしていた「あの頃」とは変わった最近の子育て事情をテーマに、食事やおやつの与え方、歯みがきのコツなどを学びました。

講座2回目は、長年子どもの発達相談に関わった臨床心理士の浅野房雄さんによる講演を開催。浅野さんは、孫育ての心得を「ボランティアに徹し、しつけや教育方針に出過ぎず、子どもの親との関係に入り込み過ぎないこと。口出し過ぎると親としての成長を邪魔してしまう。親の考えを尊重することが大切」と訴え、孫と関わるコツを「小さな成長を見逃さず、認めてあげることが必要」と話しました。

現在2人の孫育て中の柴崎みどりさんからは「今後は、親の気持ちになって同じ目線で一緒に成長していきたい。孫に遊んでもらう気持ちで無理をせず孫育てしたい」と話が聞けました。

有料広告欄

有料広告欄